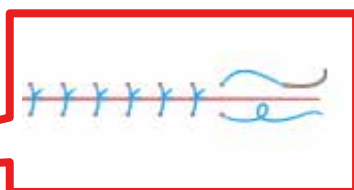
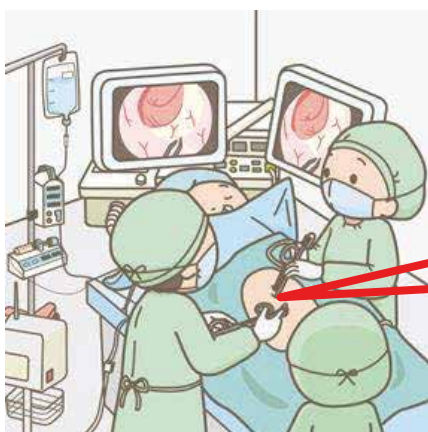


テーマ:手術室における縫合針紛失防止策

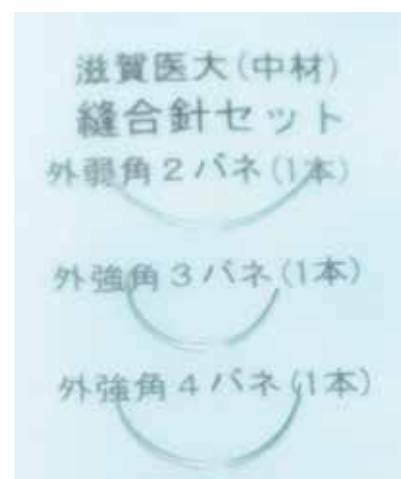
■ 背景

あらゆる外科手術において、切り離された組織は縫合糸によって縫い合わされる。手術の種類や場所によって様々な種類の縫合針が使い分けられている、すなわち縫合針はその長さ、湾曲度、太さによって数多くの種類のもので市販されている。

手術後にガーゼや縫合針などの手術材料が、誤って患者体内に残存する医療事故は頻度は多くないが稀に報告される。中でも縫合針の体内遺残は重大な健康被害の恐れがあるため特に注意が必要である。



<出典:看護root>



■ 課題

医師が縫合手術中に縫合針が手元から飛んでいく事が時々ある。手術の種類によっても異なるが、一度の手術で数本～10数本の縫合針が使用される。手術終了後に使用した縫合針数をスタッフで集めてカウントするのだが、数が合わない場合は手術室中を捜索することとなり、場合によっては患者が手術室から出られないこともある。これは縫合針がとても小さく、一旦手元から飛んでしまい床に落下する、あるいは手術着に付着すると周囲と同化してしまい発見が困難になることに起因する。この課題を抜本的に解決してくれる方法を求めています。

■ 市場性

滋賀医科大学付属病院での手術件数は2021年度は6,600件に上る。当病院の規模を考慮すると、全国では数百万件の手術が1年間に施行されていると推定される。縫合針の価格は1本当たり数千円であり、年間では数十億円規模の市場と思われる。

■ 手術部ホームページ

https://www.shiga-med.ac.jp/hospital/doc/department/central_Operation/operation/index.html